

『(仮称) 図書館人物事典』の執筆要領・項目執筆例について

2015年3月31日
日本図書館文化史研究会
『(仮称) 図書館人物事典』編集委員会

『ニューズレター』128号、129号に既報のとおり、『(仮称) 図書館人物事典』の執筆要領ならびに項目執筆例は、下記のとおりです。

執筆要領

総 則

1. 原稿は標準テキストによるワープロ原稿とし、メール添付で提出する。
2. 原稿は編集委員会の責任で統一・修正する。
3. 著作権は日本図書館文化史研究会に帰属する。
4. 著者校正は初校のみとし、字句の修正以外は認めない。
5. 原稿は以下の①～⑦のタグをつけ、各項ごとに改行する。
 - ① 氏名： 姓と名の間に／を入れる。(例：森／清)
 - ② 氏名の読み： ひらがなで表記し、姓と名の間に／を入れる。(例：もり／きよし)
 - ③ 生没年： 西暦4ケタで表記し、生年と没年の間に-を入れる。(例：1906-1990)
 - ④ 出身地： 都道府県名とする。(例：大阪府生まれ)
 - ⑤ 学歴： 最終、あるいはおもな学歴を記載する。(例：1922年大阪市立実業学校卒業)
 - ⑥ 略歴： 図書館関係を中心とした履歴、業績などを各ランクの制限字数の範囲で記述する。
 - ⑦ 参考文献： 次のような順に書誌的事項を記述し、各事項の間にスペースを入れる。複数の参考文献がある場合、文献ごとに改行し、冒頭にタグ⑦を入れる。
 - 単行本： 『書名』 責任表示 出版者 出版年 (例：2014)
 - 雑誌記事： 執筆者 「記事タイトル」 『誌名』 巻号 刊行年月 (例：2014.6)

なお、外国人名について、①②④は次のとおりとし、⑦はできる限り日本語文献とする。

- ① 氏名： カタカナで表記し、姓と名の間に／を入れる。(例：カーネギー／アンドリュー)
- ② 氏名の原綴： アルファベットで表記し、姓と名の間に／を入れる。(例：Carnegie／Andrew)
- ④ 出身国： 国名とする。(例：アメリカ合衆国生まれ)

A ランク 全体を 800 字程度で記述する。

被伝者の写真のデジタルデータとその出典を別ファイルで添付する。

- ⑥ 略歴： 履歴，業績などを制限字数の範囲で詳細に記述する。改行した場合，各段落の冒頭にタグ⑥を入れる。
- ⑦ 参考文献： 3～5 程度とする。

B ランク 全体を 400 字程度で記述する。

- ⑦ 参考文献： 2～3 程度とする。

C ランク 全体を 100 字程度で記述する。

- ④ 出身地： 記載せず？を入力する。
- ⑤ 学歴： 記載せず？を入力する。
- ⑦ 参考文献： 1～2 程度とする。

項目執筆例

- ①姓／名 ②よみ姓／よみ名 ③生没年 ④生まれ
- ⑤最終学歴 ⑥活動 ⑦参考文献 写真（Aランクのみ）

A ランク

①森／清 ②もり／きよし ③1906-1990
④大阪府生まれ ⑤1922 年大阪市立実業学校卒業
⑥1922 年間宮商店に就職，1927 年青年図書館員聯盟（LYL）の結成に参加，1928 年その機関誌『図書館研究』に「和洋図書共用十進分類表案」を発表，翌 1929 年に『日本十進分類法』（NDC）を間宮商店から公刊した。

森は，間宮商店主間宮不二雄の指示により，1927 年より間宮文庫の整理に従事，デュイの十進記号法を基礎としながら，カッターの展開分類法の主題配列を取り入れて，日本の図書館に適する分類法として NDC を考案した。NDC は，森が中心となって 1931 年訂正増補 2 版，1935 年同 3 版，1939 年同 4 版，1942 年同 5 版と改訂が重ねられた。また戦後は，JLA 分類委員会委員として，NDC 新訂 6～8 版の改訂作業に関与した。

森は，1931 年から鳥取県立図書館，1934 年から神戸市立図書館にそれぞれ勤務し，NDC の導入などを担った。さらに 1938 年に上海日本近代科学図書館に，1939 年に華中鉄道株式会社に転じ，図書館新設に携わった。敗戦後日本に引き揚げ，1946 年市川市立図書館開設準備を経て，1947 年帝国図書館に入った（1948 年国立図書館，1949 年 NDL）。NDL ではおもに整理部に属し，『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録』（国立国会図書館，1971-1976）の編纂などを担当した。

この間，各地の司書講習講師などを務め，NDL 退職後は法政大学，青葉女子短期大学司書課程の教員となり，後進の育成に当たった。

NDC 以外の著作には『日本著者記号法』（日本図書館協会，1951），『NDC 入門』（日



本図書館協会,1982) などがある。

⑦もり・きよし年譜 もり・きよし著作・雑記目録 『知識の組織化と図書館：もり・きよし先生喜寿記念論文集』 もり・きよし先生喜寿記念会 1983

⑦『司書 55 年の思い出』 もり・きよし著 もり・きよし氏を偲ぶ会 1991

⑦シンポジウムもり・きよし:生誕 100 年 『図書館文化史研究』 第 24 号 2007.9 (777 字)

B ランク

①廿日出／逸暁 ②はつかで／いつあき ③1901-1991 ④広島県生まれ

⑤1925 年竜谷大学卒業, 1932 年ライブチヒ大学卒業

⑥帝国図書館嘱託などを経て, 1935 年千葉県図書館長となり, 1959 年国立国会図書館連絡部長に転出するまで県立図書館の経営と県下図書館事業の育成に当たった。とくに移動図書館「ひかり号」の運行(1949 年)は, 戦後図書館改革の先駆となった。この間 JLA 公共図書館部会長(1955 年)などを務め, 国の図書館行政にも関与した。また文部省図書館講習所, 実践女子大学, 千葉経済短期大学などで図書館員養成に従事した。主要著作は『図書館活動の拡張とその背景』に収められている。

⑦『千葉県立中央図書館三十年略史:大正 13 年・昭和 30 年』 千葉県立中央図書館創立三十周年記念事業実施委員会編 千葉県立中央図書館創立 30 周年記念事業委員会 1956

⑦『千葉県図書館史』 千葉県図書館史編纂委員会編 千葉県立中央図書館 1968

⑦廿日出逸暁略年譜 『図書館活動の拡張とその背景:私の図書館生活 50 年』 図書館活動 50 年記念刊行会 1981

(412 字)

C ランク

①片岡／小五郎 ②かたおか／ござろう ③1882-1929 ④? ⑤?

⑥千葉県立図書館司書(1924-1929), 千葉県図書館協会理事(1926-1929)。著作に「日本図書館協会革新の提唱と吾邦図書事業の発展策」(1926) などがある。

⑦『千葉県図書館史』 千葉県図書館史編纂委員会編 千葉県立中央図書館 1968

(115 字)

以上